

# アレルギー抑える分子

## 疾患防ぐ医薬品開発に道

筑波大が発見

筑波大の渋谷彰教授の研究グループは、アレルギー症状の発症を抑制する分子を発見した。この分子は、花粉症やアトピーなどの症状を強く引き起こす。分子の働きを調整

イチャイムノロジー(電子版)に掲載された。アレルギー疾患では免疫細胞の一種である肥満細胞が過剰に働き、炎症を引き起こす。研究グループは、肥満細胞が炎症を引起こす物質を放出する仕組みに着目。炎症

が起きると肥満細胞内に見える新たな分子を見つけた。同グループは発見した分子を「アラジン-1」と名付けた。アラジン-1を作る遺伝子を持たないマウスを作り、アレルギー反応を誘導したところ、通常のマウスと比べ

2倍近いアレルギー症状を引き起こした。実験から、アラジン-1が肥満細胞の活性化を抑制することを証明。アラジン-1の働きを強める薬剤を開発すれば、アレルギー反応を根本から抑えられる可能性があるとしている。

は6日付の米科学誌「ネ